

第4 地 域 創 生

第 4 地 域 創 生

地域創生部は、市町村と連携して過疎地域や特色ある地域づくりを支援するとともに、「ぐんま暮らし」のブランド化による移住促進や、県外に在住しながらも継続的に県内地域との関わりを持つ関係人口の創出を図るための各種施策を行った。また、芸術文化・スポーツの振興により、魅力と活力のある地域づくりを推進するための各種施策を行った。

令和 6 年度は、新・総合計画（基本計画）のビジョン実現に向けて、次の重点施策に積極的に取り組んだ。

【令和 6 年度の重点施策及び主な取組】

1 県民総活躍社会の実現

(1) 多文化共生・共創

- ・外国人県民のコミュニケーション支援
- ・外国人県民が安心して暮らせる環境を創るための生活支援
- ・ぐんまを創る「仲間」である外国人県民とともに新たな価値を創造していくことを推進

(2) 移住者や関係人口を構成する人々の活躍

- ・ぐんま暮らしのブランド化による移住促進・関係人口創出

2 官民共創コミュニティの育成

(1) 地域課題解決

- ・住民主体の地域活動（地域運営組織、地域づくり団体等）の促進
- ・地域おこし協力隊の起業・継業や特定地域づくり事業協同組合の設立を支援

(2) スポーツによる地域創生

- ・県内のプロスポーツチームの魅力発信や活動サポート、プロスポーツを核としたスポーツの成長産業化
- ・アウトドアスポーツを活用した交流人口増大
- ・群馬県スポーツ選手の活躍により、県民の感動・誇りを醸成

(3) 文化による地域創生

- ・新しい文化価値の創造
- ・アートを活用した地域振興
- ・文化財や歴史文化遺産の保存・活用

1 地域創生費

(1) 総務調整費

決算額 7,182 千円

部内予算の適正、効率的な執行を図るため、部内共通経費や年度途中に機動的な対応が必要となった経費等に支出した。

区 分	内 容	金 額
主管課運営費	部内共通経費等	1,785 千円
部局調整費	県立 5 館におけるキャッシュレス決済手数料等	5,160
指定管理	指定管理者評価委員会	237

(2) 社会参加費

決算額 209 千円

職員が地域社会に積極的に参加することにより、県民の声を聴いて県政に反映し、また、県政の方針や事業等について県民の理解と協力を求めるため、各種団体との会合に伴う会費等の支出を行った（執行所属数：4 課 5 所）。

(3) 文化スポーツ施設等特別維持整備費

決算額 34,501 千円

地域創生部所管の県有施設で緊急に必要となる補修工事等に機動的、弾力的に対応した。

修繕費	役務費	工事費	備品費	合 計
21,726 千円	266 千円	5,080 千円	7,429 千円	34,501 千円

(4) 地域政策推進

決算額 5,885 千円

① 地域づくりネットワーク推進

県内約 110 の地域づくり団体と県・市町村で構成する「群馬県地域づくり協議会」の運営を通じて、研修会や講演会の開催、優良団体の表彰、情報誌の発行等を行い、構成団体の取組の活性化と構成団体同士の連携の強化を図った。

② 群馬県版図柄入りナンバープレートの導入

令和 5 年 10 月からぐんまちゃんデザインの群馬県版図柄入りナンバープレートの交付開始。動画や SNS 等を活用し広く県民への普及促進を図った。

(5) 地域調整費

振興局等において地域の政策課題に機動的かつ柔軟に対応するため、地域調整費を活用し、地域の振興及び活性化を図った。

① 地域振興調整費（地域振興事業）

決算額 45,286 千円

振興局長のマネジメントにより地域の振興及び活性化、地域の課題解決、将来に向けた芽出しのための事業に機動的、弾力的に対応したほか、県政への住民参加等の各種事業を実施した。

・主な活用事例

事業名	事業概要	事業費
TWINKLE POWER FESTIVAL ～まちなか七夕イベント～（中部振興局）	伊勢崎商店街を盛り上げるため、コロナ禍で中止となった七夕祭りを民間主導で装いを新たに開催。	500 千円
榛東村・吉岡町合同企画イベント （北群馬渋川振興局）	榛東村と吉岡町が観光PRと誘客促進のためマルシェイベントを合同開催。	500
「持続可能な観光シンポジウム」開催（高崎安中振興局）	安中市観光機構及び特徴的な取組を行う県外の観光地域づくり法人による事例発表及びパネルディスカッションを行うシンポジウムを開催。	220
多野藤岡リトリート実感マップ等制作（多野藤岡振興局）	多野藤岡管内でしか味わえない癒やしやリフレッシュできるコンテンツを紹介するマップ及び紹介動画を作成し、「リトリート」を目的とした新しい過ごし方や観光スタイルをPR。	847
明治時代に東京都内から譲り受けた山車の里帰りを通じた都市交流（甘楽富岡振興局）	明治39年に東京都荒川区橋場二丁目から下仁田町（仲町）が譲り受けた山車を里帰り（巡行・展示）させ、文化及び住民相互の交流を図る事業を実施。	501
吾妻地域におけるLINEを活用した周遊観光促進（吾妻振興局）	LINEを活用し、群馬県吾妻郡6町村の観光地等をつなぎあわせ、観光客の動向及びニーズ調査を兼ねた周遊観光促進事業を実施。	1,313
利根沼田地域おすすめ観光スポット紹介キャンペーン（利根沼田振興局）	利根沼田地域における個人観光客の周遊を促進するため、利根沼田地域を訪れたことのある人や地元住民から、推薦したい観光スポット等を募集するキャンペーンを開催。	139
SNSを活用した情報発信（東部振興局）	関東学園大学の学生を情報収集員（太田キラリ発見girls）に任命し、太田・邑楽館林地域の店舗やイベントをPR。	298
わたらせ渓谷鐵道の利用者拡大（桐生みどり振興局）	わたらせ渓谷鐵道の利用者数を拡大させるため、中小3鉄謎解きラリー（10月1日～1月31日）及びわ鐵沿線鳥瞰図看板制作を実施。	500

② 地域公共事業調整費

決算額

285,352 千円

複数分野に関わる基盤整備、地域総合行政に資する公共事業を実施した。

・主な活用事例

事業名	事業概要	事業費
アースケア敷島サッカー・ラグビー場更衣室改修工事（中部振興局）	更衣室 2 箇所を更新し、スポーツロッカー50 台を整備した。	7,700 千円
木柵更新工事（北群馬渋川振興局）	渋川市赤城町の敷島地区内の交通安全対策と、快適な道路環境の整備を推進するため、木柵を更新した。	4,345
河川維持補修（高崎安中振興局）	防災対策や景観整備のため、荒久沢川の河床内に繁茂している植物（アシ等）を除草した。	8,000
桜山森林公園第 2 の広場トイレ改修工事（多野藤岡振興局）	照明の交換やウォシュレット付き便器に改修をした。	4,180
公衆トイレ新築工事（甘楽富岡振興局）	下仁田町の国道 254 号沿いに公衆用トイレを設置した。	18,000
四万川ダム公園遊歩道補修（吾妻振興局）	公園遊歩道が劣化により凹凸が発生しているため、舗装補修を行った。	4,000
牛の平地区・法面保護（利根沼田振興局）	牛の平地区（片品村花咲）において、水路の法面を植生により保護し、凍結融解による土砂の剥離を防止した。	9,900
路面補修（東部振興局）	わだち掘れ等が多い、国道 354 号の全面的な路面補修を実施した。	8,000
桐生田沼線電線共同溝事業 フットライト設置・既存標識景観色化（桐生みどり振興局）	「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」にある本町通りの歴史的な町並みと調和を図り、地域の魅力向上のため、歩道フットライト整備及び標識の景観色化を実施した。	11,495

(6) 過疎地域持続的発展支援

決算額

4,189 千円

過疎地域いきいき集落づくり支援

過疎集落の住民が主体となって実施する集落の維持・活性化への取組を支援した。

区 分	内 容	事業費
過疎地域いきいき集落づくり支援事業補助	・ 移住者が運営するゲストハウスでの田舎暮らし体験ツアーを通じた移住促進 ・ 地域の主要観光地でのアカペライベント開催 ・ 1～2 週間程度の短期的な農業体験を通じた農業の担い手確保 など計 8 件	3,722 千円

(7)山村振興対策

決算額

437 千円

過疎・山村地域の振興及び活性化を図るため、県・市町村間で共通認識を醸成するとともに、各市町村における今後の施策や事業への反映を目的に、市町村担当者向け講演会を実施した。

開催期日	内 容	参加者
令和 7 年 3 月 10 日	「撤退と再興の集落づくり」の演題にて、地域の活性化以外の新たな選択肢等に関する講演を行った。	市町村過疎・山村振興担当課、県行政県税事務所等

(8)地域おこし協力隊の活動・定住支援

決算額

2,163 千円

市町村の制度導入や隊員の活動・定住を支援するため、「地域おこし協力隊情報交換会」や「スキルアップセミナー」等を開催したほか、隊員が自ら必要なスキルを身につけるために行う研修活動を支援する「アドバイザー派遣」を実施した。また、地域おこし協力隊ポータルサイト「ツナグンマ」により、隊員の募集情報や活動情報等を発信した。

・ 令和 6 年度地域おこし協力隊導入実績（令和 6 年 4 月 1 日時点）

区 分	実 績
導 入 市 町 村	25 市町村（前橋市、桐生市、伊勢崎市、沼田市、渋川市、藤岡市、富岡市、安中市、みどり市、上野村、神流町、下仁田町、南牧村、甘楽町、中之条町、長野原町、嬬恋村、高山村、東吾妻町、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町、玉村町、明和町）
隊 員 数	123 人

・地域おこし協力隊活動・定住支援開催実績

区 分	開催期日	開催場所	参加者数
地域おこし協力隊 情報交換会	令和 6 年 6 月 26 日	県庁	隊員 28 人 市町村職員 8 人 県職員 12 人 その他 4 人 計 52 人
	令和 6 年 10 月 28 日	県庁	隊員 25 人 市町村職員 2 人 その他 5 人 計 32 人
地域おこし協力隊 導入支援セミナー	令和 6 年 10 月 8 日	県庁	隊員 6 人 市町村職員 18 人 県職員 6 人 その他 5 人 計 35 人
地域おこし協力隊 スキルアップセミナー	令和 6 年 12 月 4 日	県庁	隊員・O B O G 17 人 市町村職員 2 人 県職員 3 人 その他 4 人 計 26 人
地域おこし協力隊 交流研修会	令和 7 年 1 月 30 日 ～31 日	渋川市	隊員・O B O G 等 28 人 市町村職員 3 人 県職員 5 人 その他 4 人 計 40 人
アドバイザー派遣	令和 6 年 7 月 5 日～ 令和 7 年 2 月 26 日 計 6 回	安中市、みどり市、 渋川市、嬬恋村	隊員ほか延べ 61 人

(9) 地域連携強化

決算額

26,762 千円

① 地域支援員設置

4 つの振興局に地域支援員（地域創生課員）を配置し、新しい地方経済・生活環境創生交付金について、市町村の交付申請を伴走支援したほか、市町村等による地域課題解決の取組等の支援を行った。

・新しい地方経済・生活環境創生交付金（市町村分）実績

区 分	実 績
第2世代交付金（市町村分）	19市町村 45事業 1,506,759千円
デジタル実装型（市町村分）	22市町村 38事業 577,332千円

・市町村等による地域課題解決の取組等の支援実績

区 分	実 績
地域課題解決の取組等の支援	35市町村 283件

② 振興局が主体的に実施する事業の推進

市町村と連携し地域課題解決に向けて取り組み、地域活性化を図った。

- ・次世代型観光梅林推進事業（高崎安中振興局）
- ・利根沼田サイクルツーリズム推進事業（利根沼田振興局）

③ 群馬県未来構想フォーラム

県の近未来構想の理解促進を図るため、近未来構想や地域の課題等に関する意見交換を行った。

地域	参加者	WEB 配信視聴者	ディスカッションのテーマ
藤 岡	400人	39,068人	持続可能なまちづくり・ひとづくりについて
高 崎	550	41,175	子育て支援について
太 田	500	39,073	多文化共生について
吾 妻	580	39,238	持続可能な地域づくりのための、地域資源を活かした「攻め」の誘客促進について
前 橋	750	休止	こども教育について
利 根 沼 田	550	休止	農業の振興による地域創生について
桐 生 み どり	370	休止	移住定住・関係人口の拡大について
館 林	360	休止	再生産可能な地域社会の創出とまちづくりについて
渋 川	360	休止	誰もが活躍し輝く「北群馬・渋川」の人づくり・まちづくりについて
伊 勢 崎	630	38,684	持続可能なまちづくりについて
富 岡	450	37,889	地域の未来ビジョンについて
Youth Stage	40	39,115	大学生からの知事への提案

(10) 土地利用対策

決算額

27,248千円

① 土地利用基本計画等の管理運営

県土の適切かつ合理的な利用を確保するために、国土利用計画法第9条の規定による「群馬県土地利用基本計画」に基づき、土地利用の総合調整等を行った。

令和6年度は、13件の「計画図」の変更を行った。

② 届出・勧告制度の運用

県内における一定規模以上の土地取引について、国土利用計画法第 23 条の規定に基づいて届出を受け、利用目的を審査し、適切な土地利用の推進を図った。

＜届出処理状況＞ 令和 6 年（1 月 1 日～12 月 31 日までの集計）

区 分	受理件数	処理件数				
		勧 告	助 言	不勧告	取下げ	計
届 出	577 件		30 件	547 件		577 件

③ 地価調査

国土利用計画法施行令第 9 条の規定に基づき、7 月 1 日を基準日とする基準地の鑑定評価を公益社団法人群馬県不動産鑑定士協会に委託して実施し、宅地 367 地点及び林地 6 地点の標準価格を公表し、適正な地価情報の提供に努めた。

④ 大規模土地開発事業対策

群馬県大規模土地開発事業の規制等に関する条例に基づき 5 ha 以上の民間大規模土地開発事業に対して、必要な指導を行い、県土の保全と秩序ある開発に努めた。

(11) 水資源対策

決算額

9,504 千円

① 水資源の総合調整

国土交通省の依頼に基づき、全国水需給動態調査を実施した。

② 水資源の確保対策

水資源を将来にわたり安定的に確保するため、水資源開発施設の利用調整に努めるとともに、（独）水資源機構等に対して施設の管理費を負担した。

③ 健全な水循環の啓発

利根川上流の群馬県と下流の東京都とで行う利根川水系上下流交流事業では、東京都と共同して水の大切さ及びダム役割を啓発するとともに、水源地域の情報発信を広く行った。

(12) 発電施設周辺整備

決算額

227,412 千円

発電施設周辺地域住民の福祉の向上等を図るため、電源立地地域対策交付金交付規則に基づき、対象市町村（17 市町村）の公共施設運営・整備等に対し交付金を交付した。

区 分	内 容	事業数	交 付 金
道 路 関 連	舗装維持修繕等	12 件	45,576 千円
福 祉 関 連	保育所等運営	7	150,583
教 育 関 連	教育支援員配置等	2	12,244
地 域 振 興	特産物配送用車両整備等	5	17,741
計		26	226,144

2 めんま暮らし・外国人活躍推進費

(1) めんま暮らしブランド化推進

決算額

67,467 千円

東京都千代田区に開設している「めんま暮らし支援センター」で専属相談員が移住・就職の相談に応じるとともに、市町村と連携した移住相談会や、群馬県に関心を持つきっかけづくりとして、幅広いテーマでの移住セミナーを開催した。

また、移住希望者と地域をつなげる移住コーディネーターのほか、移住の現場できめ細かな支援を行う人材を育成するため、「地域の顔育成研修」等を実施した。

なお、認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター（現：公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構）が発表した「2024 年移住希望地ランキング」において、「窓口相談」、「セミナー参加者」の両部門で 1 位となった。

・移住相談実績

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
相談件数	4,833 件	7,807 件	7,684 件
うち就職相談件数	1,098	1,218	767

（注）相談件数は、めんま暮らし支援センター、移住相談会、県庁等で受けた相談の合計数

・移住相談会及び移住セミナーの開催実績

区 分	実施回数	延べ参加者数
めんま移住&交流フェア 2024（群馬県主催の大規模相談会）	1 回	来場者 363 人 相談者 452
市町村や振興局等と連携した移住関連セミナー・相談会の開催及び開催支援	45	838
SNS 等で発信力のある人材や企業と連携したオンライン及びハイブリッドによるセミナー	10	973
他県連携移住セミナー（栃木県・埼玉県・和歌山県それぞれとのコラボセミナー、栃木県・福島県・新潟県との 4 県合同セミナー）	4	126
大規模移住相談会等への出展（ふるさと回帰フェア、おいでや田舎暮らしフェア、テーマから探す！移住フェア 2024、JOIN 移住・交流&地域おこしフェア、新・農業人フェア、めんま就農相談会、めんま就農 FEST）	7	184

・出張移住相談会の開催実績

区 分	実施回数	延べ相談件数
県内道の駅等での出張相談会（川場田園プラザ、ららん藤岡、こんにゃくパーク、赤城高原 S A ほか）	23 回	1,151 件
県外施設での出張相談会（ふるさと交流ショップ台東、羽田空港ほか）	8	257

・地域の顔育成研修開催実績

区 分	会場	参加実績	主 な 内 容
市町村等移住 担当者向け研修	県庁	39 人	全国の移住相談の動向、移住相談の心構え、ワークショップ「ミスマッチを防ぐ移住定住支援」

(2) ぐんまでテレワーク推進プロジェクト

決算額

5,000 千円

都心から 100km という恵まれた立地や豊かな自然や温泉、全国有数の農畜産物、自然災害が比較的少ないなど、群馬県の強みや魅力を活かし、首都圏の移住希望者等に向けてワーケーションの推進や「転職なき」移住促進に取り組んだ。

① テレワークサイト

群馬県移住ポータルサイト「ぐんまな日々」内にテレワークポータルサイトを設置し、県内でテレワーク可能な施設等の P R を行った。

主な掲載内容	閲覧回数
県内テレワーク施設、ワーケーションモデルコース、施設利用者の声、 県内テレワーク施設マップ など	15,207 回

② ワーケーションマッチングイベント

都内で、県内のワーケーション受入れ自治体等と多様な働き方に関心のある首都圏在勤者等とのマッチングイベントを開催した。

③ ワーケーション地域コンシェルジュサポート（ツアー）

地域のキーパーソンを「地域コンシェルジュ」と位置付け、ワーケーション、ノマドワーク、二地域居住等に関心がある方を対象に、地域コンシェルジュが案内する体験ツアーを開催した。

開催地域（訪問先市町村）	参加人数
藤 岡 市	4 人
嬬 恋 村	2
中 之 条 町	3
渋 川 市	2
み ど り 市	1
桐 生 市	3
下 仁 田 町	7
沼 田 市	2

(3) 群馬県移住支援金

決算額

272,949 千円

東京一極集中の是正と地方の担い手不足解消のため、東京 23 区の在住者・在勤者が移住して就業・起業する場合や、テレワーク移住、関係人口からの移住を対象に、最大 100 万円を支給する事業を市町村と連携して実施した。

区 分	支給件数	支 給 金 額
就 職	5 件	計 363,800 千円 (うち国県補助分 272,850 千円)
起 業	1	
テ レ ワ ー ク	136	
関 係 人 口	159	
計	301	

(4)外国人活躍推進

決算額

12,780 千円

労働力不足が深刻化し、国内外で外国人材獲得の国際競争が激化する中、県内で働く外国人が活躍できる環境づくりを促進するため、多文化共創を実践するロールモデルとしてふさわしい事業者を「群馬県多文化共創カンパニー」として認証したほか、海外大学等との関係構築を図る「外国人材活躍推進ネットワーク構築」、企業の外国人材の受入れを支援する相談会や合同企業説明会、外国ルーツの高校生のキャリア形成を支援するためのインターンシップ等を実施した。

区 分	事業説明	実 績
群馬県多文化共創カンパニー認証制度	多文化共創を実践するロールモデルとしてふさわしい事業者を認証し、その取組についてシンポジウムやSNSを通じ、国内外へ情報を発信	申請 18 件 認証事業者 2 社 情報発信 16 本
外国人材活躍推進ネットワーク構築	群馬県の認知度向上や人材確保に向けて、大使館等の関係機関と連携し、ベトナム等ASEAN 諸国の現地大学等と関係を構築	訪問 2 か国 計 14 大学等 学生 900 名超
外国人材受入れ相談会	外国人材の雇用を検討している事業者を対象に専門家（行政書士）による相談会を開催	実施 11 回 参加企業 24 社
外国人材発掘支援	海外在住の大学生等や外国人留学生等を対象とした合同企業説明会をオンライン・対面で実施	オンライン 参加企業 10 社 参加者 144 人 対面 参加企業 15 社 参加者 53 人
多文化共創担い手育成	県内に住む外国ルーツの高校生のキャリア形成を支援するため、インターンシップ・活動報告会を実施	【第一期】 受入企業 3 社 参加生徒 9 名 【第二期】 受入企業 3 社 参加生徒 14 名

(5) 多文化共生支援

決算額

32,104 千円

外国人県民は、地域経済及び地域の活力をともに創る「仲間」であるとの考えを踏まえ、「群馬県多文化共生・共創推進条例」（令和3年4月施行）及び「群馬県多文化共生・共創推進基本計画」（令和4年4月施行）に基づき、市町村や関係機関と連携し、多文化共生・共創社会の実現に向けた取組を行った。

① 安心して暮らし続けられる環境の整備

ア 「やさしい日本語」の普及

あいまいな表現を避け、わかりやすく伝えることに重点を置いた「やさしい日本語」に対する理解を深め、普及させるため、教材を作成するとともに研修会を実施した。

区 分	実 績
群馬大学医学部生向け講座	122 人
県民向け講座	31
企業団体向け講座	5 団体

イ ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター運営

生活者としての外国人県民が、生活全般に関する適切な情報に速やかに到達できるよう、多言語で情報提供を行い、生活全般に関する相談のほか、法律相談にも応じる窓口を運営した。

対 応 言 語	相談件数
英語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語、スペイン語、ネパール語	1,197 件

ウ 地域日本語教育体制整備

外国人県民が日本語を学習できる環境を充実させるため、群馬県における日本語教育の総合的な体制づくりを推進した。

区 分	実 績
総合調整会議	開催回数 3 回
日本語学習支援ボランティア養成講座	開催回数 3 回、参加者数 23 人 (県庁、渋川市、オンライン)
外国人日本語学習支援ボランティア養成講座	開催回数 11 回、参加者数 15 人 (うち修了者 11 名) (伊勢崎市)
地域日本語教室ミーティング	開催回数 2 回、参加者数 35 人 (県庁、オンライン)
日本語学習支援スキルアップ研修	研修 2 回、講演会 1 回、参加者数 132 人
地域日本語教室巡回	巡回 3 か所 (高崎市、嬬恋村、邑楽町)
トライアルオンライン日本語教室	開催回数 4 回、参加者数延べ 15 人 (昭和村)

区 分	実 績
日本語教育実施機関・団体等への補助	補助団体数 8 団体（県補助 1,581 千円） （前橋市、沼田市、大泉町、太田市、 伊勢崎市国際交流協会、館林市国際交流 協会、安中市国際交流協会、嬭恋村国際 交流協会）

エ 災害時外国人支援

災害時に外国人県民に対して正確な情報提供を行うための「災害時外国人支援ボランティア」の養成及び外国人住民を対象とした「防災訓練（避難所体験等）」を市町村と連携して実施した。

区 分	参 加 者 数
災害時外国人支援ボランティア養成講座	外国人支援ボランティア 14 人
区 分	参 加 者 数
外国人住民のための防災訓練 （桐生市）	外国人支援ボランティア 14 外国人住民 36

オ 医療通訳ボランティアの養成・派遣

外国人県民が医療機関等で受診する際に必要とする通訳（ボランティア）を養成し、協定医療機関等からの要請により派遣した。

区 分	実 績
養成講座参加者（うち登録者）	12 人（6 人）
医療通訳ボランティア登録者	13 言語・延べ 112 人
医療通訳ボランティアの派遣	211 件

② 誰一人取り残さない「多文化共生・共創社会」の実現に向けた取組

ア 多文化共生推進協議会への参画・連携

外国人住民が多い 7 県 1 市（群馬県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、名古屋市）で構成する「多文化共生推進協議会」に参画し、関係省庁への政策提言を実施した。

イ 多文化共生・共創推進月間（10 月）

県民全体で多文化共生・共創社会実現への取組を進めるため、メッセージ性のある啓発動画を活用し、県庁舎デジタルサイネージや映画上映前の広告を通して、集中的に情報発信した。また、幼少期から多文化に触れ、交流を通して多様性を理解する機会を提供するため、官民共創イベント「からっかぜパーク」を開催し、「多文化共生・共創」の機運を醸成した。

3 文化振興費

（１）文化づくり推進

決算額 150,204 千円

- ① 多様な文化芸術活動や地域の伝統文化継承活動等を推進するために設置している群馬県文化振興基金を活用し、個性豊かな地域づくりにつながる県民の自主的・主体的な文化活動を支援した。

区 分	事 業 内 容	事業費
文 化 づ く り 支 援	・「ぐんまスタイル」の創造につながる多様で創造性豊かな文化活動や事業（11 件）に対して支援	千円 7,013

- ② 群馬県の文化的風土の象徴である「上毛かるた」を活用し、県民の郷土愛や群馬の歴史や文化に対する誇りを育むため、上毛かるた及び関連書籍の発行・販売を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
上 毛 か る た 活 用	・上毛かるた発行 9,000 部、販売 11,723 部 ・副読本「『上毛かるた』で見つける群馬のすがた」、ガイドマップ「『上毛かるた』ゆかりの地 文化めぐり」、英語版上毛かるたの販売の継続 ・上毛かるたの利用許諾 104 件	千円 8,698

- ③ 「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録を目指し、関係機関と連携しながら国内における機運醸成を図るとともに、知事の会の参画道府県と連携し、国内候補選定に向けた要望活動等を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
温泉文化ユネスコ無形文化遺産登録推進	・「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会の運営（令和 6 年度末時点で 44 道府県が参画）及び参画道府県と連携した調査研究の実施 ・民間企業や団体と連携した機運醸成事業の実施（計 8 件） ・普及啓発動画制作による温泉文化の価値や魅力の発信 ・「ぐんま温泉街道」事業の実施（湯めぐり手形の販売、七大温泉地プレミアムイベントの実施）	千円 118,395

（２）埴輪王国ぐんまの推進

決算額

47,600 千円

群馬県出土の埴輪が質・量ともに日本一であるという点に着目し、「埴輪王国ぐんま」の魅力を発信・定着させ、観光・地域振興や群馬県のイメージアップを図るため、周知事業を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
埴輪、古墳の価値や魅力の発信	・群馬県の歴史文化遺産の価値を再認識してもらうとともに、イメージアップを図るため、埴輪や古墳などの魅力を発信するイベントを実施 ・東京国立博物館で開催された特別展「はにわ」にあわせ同館に特設ブースを設置し、「埴輪王国ぐんま」のPRを実施 ・東国文化関連動画再生回数（累計）：88,203回	千円 8,788
東国文化副読本の活用	・東国文化副読本改訂版の印刷製本 ・自由研究の募集等により学校現場や家庭における副読本の活用を推進	819
群馬県立歴史博物館 イノベーション文化 観光拠点計画	・文化観光推進法に基づき、令和2年8月に国が計画認定 ・デジタル技術を活用し、常設展示室の整備及び展示の充実を推進 ・榛名山噴火関連遺跡に関するデジタルコンテンツを制作し、古代展示室に設置 ・歴史博物館を拠点に地域の文化資源等を周遊する文化観光を促進 ・歴史博物館入館者数：89,132人	37,493
「世界の記憶」上野三碑 周知	・上野三碑普及推進会議を通じて、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうための周知活動を実施	500

(3)文化施設整備推進

決算額

163,797 千円

- ① 経年劣化に伴う補修・修繕が必要となった文化振興課所管の施設・機器等について、優先度に応じて計画的に修繕を行った。

区 分	事業内容	事業費
工 事 費	館林美術館照明 LED 化更新工事	109,450 千円

- ② 県立文化施設の収蔵品をデジタルアーカイブ化し、「群馬デジタルミュージアム」として前橋中央通り商店街での展示に活用した。

会 場	実施期間	内容	観覧者数	事業費
前橋中央 通り商店 街	令和7年2月1日 ～3月15日	集客地（前橋中央通り商店街）において、MRゴーグルを用いたMRコンテンツの展示を実施	人 3,021	千円 34,683

(4) 県立文化施設管理決算額 100,843 千円

文化振興課所管の一部県立文化施設について、県民が安全かつ良好に使用できるよう指定管理者による管理運営を行った。

区 分	指定管理者	事業費用協定額	利用件数	利用者数
群馬県民会館 (ベイシア文化ホール)	(公財) 前橋市 まちづくり公社	千円/年 79,117	件 360	人 121,626
群馬県立自然史 博物館 附帯ホール (かぶら文化ホール)	富岡市	21,259	125	34,458

(5) 文化団体等育成決算額 24,645 千円

教育・芸術文化団体を支援することで、県民の豊かな情操と教養のかん養及び文化団体の育成と地域に根ざした自主的な文化活動の振興を図った。

区 分	事 業 内 容	事業費
芸 術 文 化 関 係 団 体 助 成	県民が様々な芸術文化活動に触れる機会を提供するため、芸術文化団体を支援	千円 24,603

(6) 芸術文化事業推進決算額 337,894 千円

- ① (公財)群馬交響楽団を支援することにより、県民が本物の芸術文化に触れる機会や子どもたちが生のオーケストラ演奏に触れる機会を提供し、群馬県文化の向上と普及・振興を図った。

区 分	事 業 内 容	入場者等	事業費
群 馬 交 響 楽 団 支 援	定期・特別演奏会、音楽教室、楽器セミナー等を実施している群馬交響楽団の運営費等の経費の一部を支援	人 153,004 (うち定期 演 奏 会 入 場 者 数 14,796 人)	千円 285,978

- ② 全国初の取組である「群馬パーセントフォーアート」推進条例に基づき、県予算の一定割合をアート振興施策に支出するとともに、群馬モデル創出に向けた各種事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費
アーティスティ ック GUNMA	民間投資を呼び込むサステナブルな仕組み（アート・エコシステム）の調査研究を行った。また、工場での作品展示やワークショップを行い、企業のアートへの理解を促進する取組（群馬モデル形成事業）等を実施した。	千円 34,119

(7)教育文化事業団運営

決算額

173,956 千円

- ① 文化振興事業等を実施している(公財)群馬県教育文化事業団の運営費を助成した。
- ② 県民の文化芸術への創造的活動を助長し、地域の特色ある多様な文化芸術を充実・発展させることにより、個性豊かで創造性に富むぐんまの文化の振興を図るため、県民芸術祭を同事業団に委託して実施した。

・県民芸術祭概要

区 分	事 業 内 容	入場者数	事業費
県 文 学 賞	短歌、俳句、詩、小説、小論の5部門を選奨(随筆、児童文学は該当なし)	人 65	千円 1,863
県 展	美術展、書道展、写真展、華道展、大茶会を開催	17,442	2,766
山 崎 種 二 記 念 特 別 賞	県展出品作品から山崎種二記念特別賞(美術、書道、写真部門各1点)を授与		1,198
県民音楽のひろば	県内の各文化施設(7会場)で群馬交響楽団による演奏会を開催	4,723	17,533
群 響 企 画 コ ン サ ー ト	森とオーケストラ(群馬の森)を開催	7,017	5,709
新人演奏家発掘・ 支 援 事 業	公開オーディション合格者によるクラシック音楽に気軽に触れられる演奏会を開催	626	526
子 ども ワ ー ク シ ョ ッ プ 「はじめての文化・ 芸術ふれあい教室」 vol.9	子どもたちを対象に美術(コラージュ版画)、華道、書道、写真、茶道、吟詠・剣詩舞、オーケストラ楽器の楽しさを体験し、鑑賞する機会を提供	135	1,167
メディア芸術推進	第12回 GUNMA マンガ・アニメフェスタ(優れた作品の公募・顕彰・展示とイベント)を開催	6,061	9,933
群 馬 県 文 化 協 会 連 合 会 地域文化フェスティ バル	群馬県文化協会連合会10地域圏のうち、高崎地域圏、富岡甘楽地域圏で地域文化フェスティバルを開催	2,978	425
計		39,047	41,120

- ③ 失われつつある地域の伝統文化を次世代に継承している意欲ある団体を支援した。

区 分	事 業 内 容	事業費
伝 統 文 化 継 承	・各地域に伝わる伝統芸能や祭り、行事等を継承する活動（35 件）を支援 ・継承のための講習会等の開催や活動団体間の連携推進を図るデータベースを整備	千円 10,516

- ④ 優れた文化芸術活動を行うアマチュア文化団体を学校等へ派遣し、子ども向けの講演やワークショップ等を開催した。

区 分	事 業 内 容	事業費
はじめての文化体験	派遣団体：伊勢崎マジシャンクラブ等 17 団体 派遣先：学童クラブ等 35 か所	千円 1,027

(8) 県立美術館・博物館運営

決算額 957,857 千円

県立美術館・博物館において、県民に優れた芸術・文化等の鑑賞の機会を提供するため、各種企画展を開催するとともに、ワークショップや体験学習等の教育普及事業を一層充実させるなど、魅力ある美術館・博物館の運営に取り組んだ。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
近 代 美 術 館	・観覧者数 44,950 人 ・教育普及事業参加者 11,809 人 ・企画展「開館 50 周年記念 群馬からみる日本の美戸方庵井上コレクション 5 つの扉」など全 3 回開催 ・「こども＋おとな＋夏の美術館」「美術館アートまつり」等を開催	千円 287,391
館 林 美 術 館	・観覧者数 51,494 人 ・教育普及事業参加者 3,867 人 ・企画展「霊気を彫り出す彫刻家 大森暁生展」など全 4 回開催 ・学校との連携事業（職場体験、学校訪問、美術館見学）を実施 ・「みんなのアトリエ」「たてび☆キッズウォーク」等の開催	171,503
歴 史 博 物 館	・観覧者数 48,595 人 ・教育普及事業参加者 40,537 人 ・企画展「日本開国と群馬の生糸－鉄道・蒸気船・電信－」など全 4 回開催 ・学校団体向け学習プログラム、ワークショップ等を実施	125,487

区 分	事 業 内 容	事 業 費
自然史博物館	・観覧者数 205,361 人 ・教育普及事業参加者 47,815 人 ・企画展「北極と南極～いきものたちがめぐる海と陸」など全 4 回開催 ・インディアナポリス子ども博物館との相互交流を実施し、オンラインワークショップ「Digging Through Time～どうやって化石はできるの?～」等を開催 ・学校との連携事業（館内授業、職場体験）を実施	千円 319,271
土屋文明記念 文 学 館	・観覧者数 24,407 人 ・教育普及事業参加者 18,955 人 ・企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」など全 4 回開催 ・「短歌教室 歌人が学校に！」 ・講演会、講座等を開催	54,205

(9) 世界遺産継承推進

決算額

127,815 千円

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を将来の世代に確実に引き継ぐとともに、世界遺産をはじめとする絹遺産の価値を多くの人に伝えることで、地域全体の遺産と絹文化を守り、それらを活用した地域づくり推進につながるよう、各種事業を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少した世界遺産の 4 つの構成遺産への来訪者数は、令和 6 年度は約 40 万人に回復した。

区 分	事 業 内 容
世 界 遺 産 継 承 推 進	・世界遺産専門委員会開催 ・世界遺産・ぐんま絹遺産継承基金 企業等からの寄附金を積立て、世界遺産・ぐんま絹遺産の継承に活用（令和 6 年度積立額 8,773 千円） ・世界遺産登録 10 周年記念事業 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録 10 周年を記念し、記念式典及びシンポジウムを開催したほか、オリジナル楽曲や記念扇子の制作を行った。
世 界 遺 産 保 存 整 備	・4 市町が行う世界遺産構成資産の保存修理に対し補助（104,839 千円のうち令和 5 年度から令和 6 年度への繰越分 48,737 千円）

区 分	事 業 内 容
日本遺産・ぐんま 絹 遺 産 推 進	・ぐんま絹遺産登録（令和 6 年度末現在 106 件） ・ぐんま絹遺産保存活用推進（6 市町村・2 団体 3,333 千円） 市町村及び民間団体が行うぐんま絹遺産の普及啓発や保存修理に係る事業に対して補助 ・日本遺産推進 来訪者 WEB アンケート（回答者数：410 人）
富岡製糸場を中核 とした文化観光 拠 点 計 画	・文化観光推進法に基づき、富岡市と共同で申請し、令和 5 年 1 月に国が計画認定 ・富岡製糸場の魅力や価値の磨き上げ等を通じて、3 資産や県内シルク関連遺産、温泉地などの観光地への周遊促進（総事業費：2,896 千円） 国宝「西置繭所」企画展（会期：9/10～10/2、入場者数 20,990 人）

(10) 世界遺産センター運営

決算額

39,063 千円

世界遺産のガイダンス施設として構成 4 資産の価値や魅力を来館者に分かりやすく紹介するとともに、学識経験者や関係市町と連携して世界遺産や絹産業、絹文化の研究に取り組み、講演会や研究紀要などを通じて総合的に情報発信した。

事 業 内 容	事 業 費
・観覧者数 36,552 人 ・教育普及事業参加者 5,362 人 ・トピックス展示「渋沢栄一と世界遺産『富岡製糸場と絹産業遺産群』」など全 4 回開催 ・セカイトキッズアカデミーを開催 ・講演会・研究会等を開催	千円 39,063

4 文化財保護費

(1) 文化財保存管理

決算額

91,216 千円

文化財の保護と活用を図るため、指定文化財の保存修理・設計監理・計画策定等や埋蔵文化財の発掘調査に対する事業費補助及び文化財パトロール等を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
文化財保存事業費補助	・県指定文化財 11 件 ・埋蔵文化財発掘調査等 4 件 ・国指定文化財 11 件 ・防災設備保守点検等 8 件	千円 76,050

区 分	事 業 内 容	事 業 費
特 別 天 然 記 念 物 カ モ シ カ 食 害 調 査	・通常調査（三国山地） ・特別調査（関東山地） 群馬県・埼玉県・山梨県・長野県合同の 調査（令和6年度～7年度の2か年）	千円 12,736
文 化 財 パ ト ロ ー ル	文化財保護指導員 31 人（文化財の傷み具合や管理状況に係る報告：266 件）	2,012
高 山 蝶 パ ト ロ ー ル	・嬭恋村（ミヤマシロチョウほか）：12 人 ・渋川市（ヒメギフチョウ）：15 人	131
県 指 定 文 化 財 （建築物・民俗）管理	県指定文化財の保存・管理・活用状況の 実態調査：建築物 35 件、民俗 22 件	285

（２）埋蔵文化財保護対策

決算額

5,265 千円

公共開発事業等が予定されている埋蔵文化財包蔵地について、事前に保護策策定のための試掘調査等を実施するとともに、県内の文化財情報を整備した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
公 共 開 発 関 連 埋 蔵 文 化 財 緊 急 調 査	国や県が行う道路建設などの事業地において埋蔵文化財の試掘調査を実施して発掘調査の必要性を判断した（41 件中 19 件で発掘調査が必要）。	千円 4,812
統 合 型 G I S 更 新	統合型GISシステム（マッピングぐんま）において、遺跡・指定等文化財の情報を公開し、年 3 回、最新情報に更新した（71 件）。	453

（３）埋蔵文化財調査センター運営

決算額

46,289 千円

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して考古資料等の保存と活用を行う埋蔵文化財調査センターを適正に管理運営するとともに、埋蔵文化財についての理解を深めるための普及事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー 管 理 運 営	施設の維持管理を適切に行った。	千円 15,880
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー 展 示 普 及	各種普及啓発事業を実施した。 ・発掘情報館来場者数 6,554 人 ・最新情報展参加者数 6,327 ・最新情報展関連講演会参加者 57 ・埋蔵文化財専門講座受講者数 41 ・夏休み親子宿題教室参加者 1,329	25,166

区 分	事 業 内 容	事 業 費
金井遺跡群出土品調査 整 理	金井東裏遺跡・金井下新田遺跡出土品の価値の把握のための調査整理を実施した。 令和２年度から開始し令和６年度で終了。	千円 2,151
出土品の３Ｄ計測 アーカイブ	普段見ることのできない遺物の底部や内部等を３Ｄ画像化しインターネット上で公開した（古墳時代から古代の出土品４０点）。令和４年度から令和６年度で計１００点を公開した。	3,092

(４) 偲ぶ毛の国群馬の魅力発掘・発信 決算額 15,258 千円

国指定文化財の保存管理と活用事業に対する補助、国指定史跡である観音山古墳と上野国分寺跡の管理・運営、「群馬県近世寺社総合調査」の成果等の発信を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
観 音 山 古 墳 保 護 管 理 運 営	・ 史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・ 駐車場賃借 ・ 解説員４人で見学者への説明に対応した。	千円 5,087
上 野 国 分 寺 跡 保 護 管 理 運 営	・ 史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・ 見学者のためのガイダンス施設運営。解説員３人で入館者への説明に対応した。 ・ 社会科見学や総合学習等での学校利用促進のため、史跡上野国分寺跡・史跡観音山古墳の見学案内チラシを作成し、学校及び学校教育関係会議で配布。	9,640
ぐ ん ま の 寺 社 魅 力 発 掘 ・ 発 信	・ スマホ用アプリ「ぐんま寺社めぐり」の情報の更新（３件） ・ アプリの保守管理（年度末の累計 DL 数 4,228 件）	530

５ スポーツ振興費

(１) スポーツ団体運営費助成 決算額 108,932 千円

群馬県のスポーツ振興のための各種事業活動が円滑に行われるよう、スポーツ振興施策を県と一体となって推進している（公財）群馬県スポーツ協会の運営に係る人件費を補助し、体制の整備を行った。

(２) 生涯スポーツ振興 決算額 10,388 千円

県民が身近な場所で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村や（公財）群馬県スポーツ協会と連携してスポーツ団体の活動の支援を行うとともに、地道な活動により地域のスポーツ振興に功績のあった個人や団体を表彰した。

また、群馬県が有する優れた自然環境を活かした県境稜線トレイルの安全対策として「登山者への意識啓発」、「登山道の安全点検と情報提供」、「安全性向上のための施

設整備」に取り組んだ。

(3) スポーツイベント等の開催・支援

決算額

43,512 千円

① ぐんまマラソン

コロナ禍前のにぎわいを取り戻すべくフルマラソンの定員を 500 人増やしたほか、ウェーブスタートの導入やかぶり水場の設置など、完走率向上のための取組を行った。また、出走権付き宿泊プランやふるさと納税制度の活用などから、県内外から多くの参加者を迎えられ、参加者の健康増進を図るとともに、群馬県の魅力を発信する機会となった。

種 目	開催年月日	申込人数
フルマラソン	令和 6 年 11 月 3 日	6,478 人
10 km マラソン		4,778
リバーサイドジョギング		5,575
合 計		16,831

② 群馬県民スポーツ大会

広く県民の間にスポーツを普及振興するとともに、健康の保持増進、体力の向上及び生活の活性化を図るため、例年県民スポーツ大会を実施している。令和 6 年度は、夏季大会と秋季大会、冬季大会（スケート・スキー）を開催した。

(4) 全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤー駅伝） 決算額

7,703 千円

新春の一大スポーツイベントであるニューイヤー駅伝を、主催者の日本実業団陸上競技連合、大会主管の群馬陸上競技協会等の関係機関と連携して実施した。

また、tsulunos の活用（メインスタジオ）や、視聴者プレゼント（県内宿泊券）の実施により、群馬県の PR を行い、イメージアップを推進した。

(5) プロスポーツ支援

決算額

1,400 千円

- ① より多くの県民が地域で活動するスポーツチームへの理解と関心を深められるよう、群馬県庁の県民広場・NETSUGEN において、県内を拠点として活動するスポーツチームの公式戦を放映するパブリックビューイングを開催した。

パブリックビューイング実施チーム	開催日	対戦チーム
ザスパ群馬（サッカー）	令和 6 年 6 月 8 日	栃木

- ② 県内の小学校等に、プロスポーツチームに所属する選手・コーチ等を講師として派遣し、実技指導や自身の体験・思い等を伝える事業を県内に拠点を置くプロスポーツチームに委託して実施した。

委託先チーム	参加数（実施回数）
群馬ダイヤモンドペガサス（野球）	132 人（2 回）
群馬クレインサンダーズ（バスケットボール）	90 （1 ）
群馬銀行グリーンウイングス（バレーボール）	90 （3 ）

(6) 競技力向上

決算額

231,317 千円

- ① 群馬県のスポーツ振興の基本計画である「群馬県スポーツ推進計画」に基づき、競技力の向上を図るために、(公財)群馬県スポーツ協会、41 競技団体、学校競技団体が実施する競技力向上対策事業に対し補助を行い、国民スポーツ大会やその他全国大会、国際大会において活躍できる競技者の育成を推進した。

・競技力向上対策事業補助

事業内容		事業費
スポーツ協会	1 団体	209,996 千円
競技団体対策	41	
高体連	31	
中体連	17	
スーパーキッズ事業	16 競技 84 人参加 (4 年生)	
医科学データ活用	ラボ測定 247 人	
スポーツテック補助	19 競技団体で実施	
メディカルサポート事業	13 競技団体で実施・168 回	

・国民体育(スポーツ)大会成績

開催年	回数(大会開催県)	男女総合順位
令和4年	77 回冬季国体(栃木・秋田)	(12 位)
	77 回国民体育大会(栃木)	22
令和5年	特別国体冬季(青森・岩手)	(5)
	特別国体(鹿児島)	26
令和6年	78 回冬季国体(北海道・山形)	(8)
	78 回国民スポーツ大会(佐賀)	27

- ② 小学3年生向けの運動能力向上プログラム「ぐんまプレキッズ」事業について、前橋・藤岡・太田・沼田の4箇所を実施した。

事業内容		事業費
プレキッズ事業参加者		6,972 千円
前橋会場	60 人	
前橋会場(4 年生)	61	
藤岡会場	51	
太田会場	51	
沼田会場	21	

- ③ スポーツの振興と郷土意識の高揚に資することを目的として、パリ 2024 オリンピック・パラリンピック、世界選手権、全国大会等で顕著な成績を残した競技者に対し、群馬県スポーツ賞を贈った。

事業内容	事業費
令和 6 年度受賞者数 ○スポーツ特別栄誉賞 12 人 ○スポーツ特別功労賞 3 ○スポーツ栄誉賞 12 ○スポーツ功労賞 3 ○優秀選手賞 166	2,207 千円

- ④ トップアスリートを雇用したい企業と、県内企業に就職したいアスリートのマッチングを図り、競技力の向上と指導者層の確保を図った。

事業内容
アスリート・ジョブサポートぐんまの設置 企業数 25 社（令和 6 年度登録：5 社） 登録選手 5 人 マッチング数 2

- ⑤ 医・科学データ活用を競技団体に対して推進し、より一層の競技力向上を図った。

区 分	事業量	事業費
医科学活用アドバイザリー契約	アドバイス（フィールド） 1 回 アドバイス（ラボ） 5 アドバイス（アナリスト活用） 1 オンラインアドバイス実施（随時） 医科学体制整備提言書作成	2,000 千円
フィールド測定業務委託	1,147 人	5,000

（７）国スポ等参加推進 決算額 110,270 千円

- ① 国民スポーツ大会への派遣

群馬県の代表として国民スポーツ大会本大会や関東ブロック大会に参加した監督、選手に対して派遣費を補助し、群馬県代表選手の活躍を支援した。

区 分	事業内容	派遣人数
関東ブロック大会	第 78 回国民スポーツ大会関東ブロック大会 関東ブロック大会 山梨県 令和 6 年 6 月 1 日～12 月 15 日・31 競技	775 人
国民スポーツ大会	第 78 回国民スポーツ大会本大会 佐賀県 第 78 回国民スポーツ大会冬季大会 岡山県・群馬県（スケート） 秋田県（スキー）	318 61 44

（８）パラスポーツ推進 決算額 67,754 千円

- ① パラスポーツ普及推進

特別支援学校の児童生徒を対象に、国際大会で活躍するアスリート等との交流・体験事業を実施した。

また、パラスポーツ普及に活用してもらうこと目的に、県内各市町村に対して、ボッチャ及びフライングディスクの用具を配布した。

区 分	事 業 量	参加者数	事 業 費
トップアスリート交流	8 か所	372 人	400 千円

② パラスポーツ競技力向上

ぐんまパラアスリート支援ワンストップセンターをスポーツ振興課に設置し、パラアスリートが抱える課題を解決して競技に専念できる環境づくりを支援するとともに、学校や企業・団体からのパラスポーツに関する相談（体験授業や講習会の開催等）にも対応した。またパラアスリート及び競技団体の活動費を補助した。

区 分	事 業 量	事 業 費
ぐんまパラアスリート支援ワンストップセンター	相談 12 件 満足度 100%	
ぐんまパラアスリート始動プロジェクト補助金	22 人	6,140 千円
競技団体活動経費補助	10 団体	1,787

③ 県障害者スポーツ大会運営委託

スポーツ大会を通じて障害者の社会参加を促進するとともに、学生・ボランティアなどに運営協力を求めるなど、参加者の相互理解の促進を図ることを目的として、県障害者スポーツ大会を開催した。

区 分	実施競技	参加者数	事 業 費
県障害者スポーツ大会運営委託	12 競技	846 人	7,126 千円

④ 全国障害者スポーツ大会への派遣

全国障害者スポーツ大会（個人競技）や関東ブロック予選会（団体競技）に群馬県選手団を派遣した。

区 分	事業内容	派遣数
関東ブロック予選会	第 23 回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」関東ブロック予選会 関東各地（東京都、神奈川県、栃木県、山梨県） 令和 6 年 4 月 20 日～6 月 9 日	団体競技 5 競技
全国障害者スポーツ大会	第 23 回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」佐賀県 令和 6 年 10 月 24 日～10 月 29 日	個人競技 7 競技 59 人

(9) スポーツ施設の管理・整備

決算額 671,477 千円

- ① スポーツ振興課所管の次の施設について、県民が安全かつ良好に使用できるよう、指定管理者による管理運営を行った。

区 分	指定管理者	管理費用	利用人数	使用料収入
ALSOK ぐんま総合 スポーツセンター	(公財)群馬県ス ポーツ協会	231,000 千円	849,447 人	74,537 千円 (利用料金制)
高崎健康福祉大学 伊香保リンク	(公財)群馬県ス ポーツ協会	130,091	83,370	15,406
ライフル射撃場	群馬県ライフル 射撃協会	2,850	646	422
ふれあいスポーツ プラザ	(社福)群馬県社 会福祉事業団及 び群馬県ビルメ ンテナンス協同 組合の共同体	131,672	61,109	3,316
ゆうあいピック 記念温水プール	(社福)群馬県社 会福祉事業団	70,293	36,737	3,080

- ② スポーツ振興課所管施設において、経年劣化に伴う補修・修繕が必要となった施設・設備等について、その優先度に応じて計画的に修繕等を行った。

区 分	事業内容	事業費
工 事 費	・ 総合スポーツセンターイベント駐車場再整備工事 (令和 7 年度へ一部繰越) ・ 伊香保リンク冷凍機修繕工事 ・ ふれあいスポーツプラザプールシャワー室等床修 繕工事	72,388 千円
備 品 費	・ ALSOK ぐんまアリーナ バスケットゴール	13,530
計		85,918

6 湯けむり国スポ・全スポぐんま準備費

(1) 湯けむり国スポ・全スポぐんま開催準備 決算額 27,903 千円

令和 11 年に群馬県で開催する湯けむり国スポ・全スポぐんまに向けて、「第 83 回国民スポーツ大会・第 28 回全国障害者スポーツ大会群馬県準備委員会」に対し負担金を支出し、広報啓発、会場地市町村の選定、中央競技団体の正規視察受入れ、役員養成、マスコットキャラクターの決定や公式ホームページの立上等を行うなど、準備委員会の運営を支援した。

(2) 大会基金積立 決算額 1,005,469 千円

湯けむり国スポ・全スポぐんまの財源に充てるため、基金の積立てを行った（令和 6 年度末基金現在高 4,014,994 千円）。

(3) 施設整備 決算額 31,515 千円

湯けむり国スポ・全スポぐんまの開催に向け、県有体育施設の改修を行った。

また、市町村所有の競技施設については、競技施設基準への適合や中央競技団体からの指摘に対応するための整備に対し補助金を交付した。さらに、敷島水泳場建替工事期間中、飛込競技の練習環境を確保するため、高崎健康福祉大学と連携して陸上練習施設（ドライランド）を整備した。

① 市町村有競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金

区 分	事業内容	事業費
一般競技 (補助率 1/2)	館林市 ダノン城沼アリーナ ・館内エレベータ設置工事（設計） ・照明 LED 更新工事	1,831 千円
	みどり市 桐生大学グリーンアリーナ ・照明 LED 更新工事	3,188
特殊競技 (補助率 10/10)	館林市 城沼ローイング特設競技場 ・コース測量	3,619
	長野原町 ハッ場ダムカヌー特設競技場 ・コース基本設計	5,720
計		14,358

② 飛込陸上練習施設整備費補助金

区 分	事業内容	事業費
新 設	高崎健康福祉大学ドライランド設置工事	13,190 千円

③ 県有施設整備

区 分	事業内容	事業費
工 事 費	藤岡工業高校武道館・体育館床補強工事	3,967 千円

(4) 国民スポーツ大会冬季大会

決算額

131,120 千円

① 第 79 回国民スポーツ大会冬季大会開催準備

令和 7 年 1 月の大会開催に向け、選手へのおもてなしなどの大会開催準備や大会紹介動画の作成などの広報活動を実施した。

<伊香保国スポ 2025 開催結果概要>

期 間	令和 7 年 1 月 26 日（日）～29 日（水）（4 日間）
会 場	高崎健康福祉大学伊香保リンク（渋川市）
実施競技	スピードスケート
来場者数	2,781 名（選手・監督・役員・観覧者等）

② 第 79 回国民スポーツ大会冬季大会施設整備

大会開催に必要な施設整備として、防護マット製作・設置、計測機器更新、屋外リンク LED 照明化工事、放送卓音響設備改修工事、観覧席改修工事を実施した。

事業内容	事業費
伊香保リンク内周防護マット製作・設置工事	9,900 千円
伊香保リンク計測機器更新工事	39,600
伊香保リンク屋外リンク LED 照明化工事	36,256

事業内容	事業費
伊香保リンク放送卓音響設備改修工事	3,542 千円
伊香保リンク観覧席改修工事	2,090
計	91,388